

おもしろい図書館

No.145

発行おもしろい図書館
 代表 青木和子
 松本市牧の原1-104-406
 TEL 047-311-0886

図書館問題研究会

第57回全国大会

報告 青木和子



7月4日(日)~6日(火)、群馬県草津町で開催されました。

★4日は、シンポジウム(鼎談)と全体会

鼎談は、大宮登氏(高崎経済大 学教授)・岩崎比奈子氏(財日本 交通公社研究調査部)・嶋田学氏 (滋賀県東近江市立図書館)によ り、「まちづくり・観光・図書館」 のテーマで実践報告と討論が行な われました。

観光地草津温泉での開催ならで はのテーマ設定かと思いますが、

「図書館での観光情報の収集・提 供、観光地での図書館利用、ま ちづくりにおける観光資源とし ての図書館の可能性などについ て話し合われました。図書館関 係者だけではなく、異業種の人 達との意見交換が新鮮に感じら れ、このような交流も大切なの ではないかと思いました。

★5日は、分科会

- ①地域と図書館が元気になる図 書館政策を作ろう
- ②民営化を考える
- ③直営でよりよい図書館づくりを!
- ④新しい専門職制度をめざして
- ⑤ひと・資料を守るための危機 管理・図書館の自由の事例か ら知ろう!

⑥本屋から買うだけが資料収集じ ゃない!

⑦攻めのサービスでPR

⑧図書館利用に障害のある人へ、 サービスを進めよう!

⑨⑩合同 楽しくなければ図書館 じゃない、使えなければ図書館 じゃない

地域と図書館が元気になる

図書館政策を作ろう

報告1、地域と図書館が元気にな る図書館政策とは(滋賀県東近 江市立永源寺図書館 嶋田学氏)

報告2、図書館を活用した戦略的 健康政策の展開(品川区保健所 品川保健センター 崎村詩織氏)

報告3、豊中市立図書館評価シス テムの取組み(豊中市立千里図 書館 北風泰子氏)

報告4、群馬県立公共図書館等の 振興方策検討状況(沼田市立図 書館 星野盾氏)

更に、東近江市立能登川図書館の健康医療情報センター「バオバブ」(H.21年11月オープン)。「生まれてから亡くなるまで、誰もが生き生きと東近江地域で生活できること」を目指して、地域住民・医療・福祉・図書館などが協力して発足した懇話会が基となり、図書館内に開設されたコーナー「はがらの報告」と、群馬県立図書館の市村晃一郎氏から、群馬県上野村の図書館づくりに関わった際の報告がありました。

午後からは、午前中の報告を受けて、問題提起や意見交換などを行ないました。

- ★5月夜は、テーマ別交流会
- ①名物/上毛カルタ
- ②事前学習、草津のハンセン病史
- ③図書館九条の会

★6日は、しのくくりの全体会

各分科会からの報告・新役員選出などが行なわれ、閉会となりました。

国立療養所.....
栗生楽泉園見学

図書館問題研究会全国大会の閉会后、希望者のみ見学ツアーに参加しました。

草津温泉祭の歴史は古く、源頼朝の開湯伝説があるとのこと。傷や皮膚病に効くことから、多くの湯治客や善光寺参拝の旅人に混じってハンセン病患者も多数訪れました。

明治時代、大火に遭った草津は、その復興期に、温泉湯治がハンセン病治療にも効果があることを宣伝したため、より多くの患者が集まるようになりました。しかし、町が復興するにつれ

て、草津町では一般の客とハンセン病患者を分離することを計画。全国的にも珍しいハンセン病患者の自治集落として、町の東側に患者専用の温泉療養施設「湯之沢集落」を設けました。

195(大正4)年、イギリス人宣教師コンウォール・リー女史が湯之沢を訪れ、草津聖バルナバ教会を設立。その後、自身の財産や国内外からの寄付によって、病院・幼稚園・学校・患者が生活するたのホームなどを次々と建設し、国内最大規模の私立のハンセン病救済施設となりました。

しかしその後、日本は戦争の時代となり、リー女史の高齢化もあって、1941年、湯之沢部落は解散を余儀なくされました。そして、患者達は草津町から3kmほど東に192(昭和7)年に建設された「国立療養所栗生楽泉園」に収容され、厳しい隔離政策のもとに置かれる

こととなりました。

欧米では、ノルウエーのハンセン医師等によって、感染しにくく発症しにくいハンセン病の研究が進み、対処法が確立され、隔離政策などは過去のものとなっていった。しかし、日本国内においては、1909（明治42）年に制定された「らい予防法」のもと、偏見と差別の中で、苛酷な隔離政策が続けられました。そして、特効薬が開発された後も尚、厳しい隔離政策は継続されました。

患者達の努力などによって「らい予防法」が漸く廃止されたのは1996年でした。

その後、国の理不尽な政策によって人生を奪われた元患者達は、国家賠償を求めて提訴し、2002年には熊本で全面勝訴しました。（側は控訴を断念）

その他の全国各地において、今も闘いは続けられています。

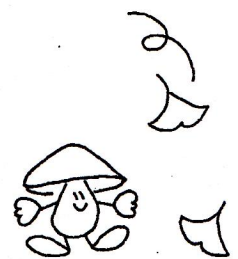
私達がお話を伺うことができた榎雄二さん（乗生楽泉園入所者自治会副会長）は、1932年生まれ。7才で発病して療養所へ送られました。昭和26年に草津へ移送され、現在に至っています。榎さんと同様、ハンセン病は治療しているものの現在も楽泉園に入所している元患者は、160人ほど。平均入所年数は60年以上。全員が高齢者です。

榎さん達は、患者達が苛酷な懲罰を受けた重監房を復元するなどして、草津の施設を「人権救済施設」にすることを求める運動を続けておられます。

草津町立図書館は、草津におけるハンセン病関連の資料を集めています。今回は断念しましたが、いつかそれらの資料を閲覧したいと願っています。

苛酷な運命を乗り越え、静かな闘志に溢れた榎さんのお話を

深く心に刻んで、帰途に就きました。



投稿

2020年の炎暑の記憶より

伊藤和子

2010年6月末に始まり、9月になってもまだ収まらない炎暑の日々。さすがに朝夕は涼しくなりましたが、日中は生きているのがイヤになる程です。

55日間、殆ど雨が降らないなどという年は初めてではないだろうか？（覚えている限り）

それもこれも自然現象だけではなく、人間が快適さを追い求めた結果なのだから、自業自得とは云え、その一つ「クーラー」が体質

に合わない古い人間にとっては、息をするのも辛い毎日でした。

この夏、一人暮らし高齢者の熱中症死がニュースになりましたが、原因は電気代云々の他に、私のようにクーラーに弱い人達が死かったのではないかと、そんな気がしました。

私など、夜クーラーをかけて寝たとしたら、すぐ肺炎をおこしたことでしよう！何故なら、昼間2〜3時間かけただけで風邪をひきのどが痛み、頭が痛くなり、吐き気を催すのですから。

当節は電車は勿論、公的な場所でも冷やし過ぎではないだろうか？あんなにガンガン冷やさなくても、と、つい思ってしまいます。

人間は地球の生物の一種で、地球を覆う土・水・空気等に直接触れて、何億年も代々生き続けてきた訳ですね。この土の上に立ち、土の中で生きるものを食べ、水を

飲み、魚を食べ、空気に包まれ呼吸してきた訳です。それが自然な暮らしというものでした。

私は単細胞な人間ですから単純な考え方ができないのですが、クーラーというものは、生物と空気を遮断して、途中に電気の壁を造るものとはいえないだろうか？窓を閉め風の流れを止め、クーラーの人工的な涼しさの中に一日中居ても平気という感覚は危なくないだろうか？電力を無制限に使っていけば、そのうち、この地球を支えている循環システムは崩れるのではないかと等々。

杞憂と思われそうですが、クーラーという機械を使えば使うほど、他を思いやる心が薄れるのではないかと？クーラーを使う人は、他の人達に迷惑をかけるという気遣いはしないのではないだろうか？室外機から熱風が

出るのは構造上の問題で仕方がないと思うだけで、自分が涼しければそれで良いという訳です。

でも、仕方がないで済むのだろうか？

何百何千という窓という窓から放熱されている訳ですから、絶対に気温は上昇します。早急に放熱を消すか、出さない方法を実施しないと、地球は危ない！スペースシャトルを飛ばす科学力を持つ人類だから、できないことはない！戦争なんて愚かなことをしている暇は無いのに……！

今年、初めてクーラーを使ったためか？はたまた、暑さにかまけて、グダグダひたすら怠っていた故か？考える時間だけは有り、一人でジリジリしていた、熱い熱い愚考の夏でした。

